



## ○「手書き」

「山」という漢字の書き順はわかりますか？…私は、小学生の頃から漢字が苦手で、書き順にもまったく関心がありませんでした。

そのせいか文字を書くことがとても嫌いでした。教員になって黑板に文字を書くようになってからは、嫌いではすまされなくなりました。そこで意識するようになったのが書き順です。ある時生徒から書き順が違いますと指摘を受けたことがきっかけでした。日本史の教員なので、1学期の最初に授業で飛鳥時代をやります。「飛」という漢字がうまく書けず変な形の字になった時のことだったと記憶しています。

本屋に行き、小学生用の書き順が書いてある辞書を買って、それ以来うまく書けない漢字がある時は書き順を確認するようになりました。「飛」の書き順を意識して書いたら、自分なりに納得のいく形の良い字になった時のうれしさを今でも覚えています。

これまで自分の名前の一文字である「山」は、おそらく何万回というレベルで書いてきました。辞書で調べたら書き順は正確でした。自分の名前くらいはきれいな文字で書きたいという気持ちからか、自然と正しい書き順になっていたのかもしれない。「山」という漢字は、山の美しい姿、つまり主峰となる山があってその左右に山容が連なるという形の姿をあらわした文字だと言われています。富士山や大山も美しい山ですが、山脈的なイメージが山の語源となっています。そもそも漢字のルーツが中国にあるためでしょうか。

日本の古代信仰では、山には神が宿るとされてきました。奈良県の三輪山は、大神神社の神体山となっており、出雲大社のような本殿がありません。西洋では悪魔の住む山は征服するものとされ登山が発達。日本では修行する場とされ修験道が生まれました。日本の寺には寺号と山号があります。修験道場で有名だった三刀屋の峯寺は寺号、山号は中嶺山です。

今年度の1年生から一人一台端末となり、学校教育のICT化も進んでいきます。パソコンやスマホも普及し、文字(漢字)を手書きする機会はめっきり減りました。校長室だよりもパソコンで作成しています。

最初に教頭になった時にご一緒させてもらった校長先生は、手書きの文字で校長室だよりを発行しておられました。今でもお手紙をいただくときは必ず手書きの文字です。万年筆を使われるのですが、校長室だよりの中でそのことについて触れておられました。

「思いを込めて文章を書く時は万年筆を使います。紙との摩擦が大きく、ゆっくりと字を書くことができます。頭の中で生み出した言葉が、時間をかけて点や画(漢字を構成している一つ一つの点や線のこと)になり、やがて一つの文字になっていきます。ゆっくり、ゆったり筆触が味わえる万年筆が好きです…思いを手で書いて伝えることの意味を考えています…」

そう言えば私も、就職、進学のための調査書や推薦書は万年筆で清書していました。

メールで打鍵された文字を見ることには違和感はありません。しかし、手紙では打鍵された文字で読むのと手書きの文字を読むのでは思いの伝わり方が違って来る気がします。

キーボードで打鍵し、「Y・A・M・A」と打ち込み変換キーを押すと一瞬のうちに変換された「山」という文字が現れます。「打ち言葉」には、書き順や文字になっていく過程がありません。

山を眺めるときに、時折「山」という漢字を無意識に頭の中で浮かべています。同じ山を見ている、その時の精神状態によって、丸文字になったり、角張った字になったり、崩し字になったりもします。でも、その文字には三次元的(空間的)広がりや時間的広がりがあります。

私たちは、「書き言葉」と「話し言葉」の世界で生きています。主体的・対話的で深い学びが学習指導要領の肝となっています。ともすれば、対話的という言葉から、それが「話し言葉」によって成立し、それをICT活用による「打ち言葉」で効率的に深めていくかのようにも聞こえます。

「打ち言葉」の普及による便利さと引き換えに、「書き言葉」が持っている広がりや書き手の個性や思いが失われていくことがないようにしないといけないと思っています。

